

第56回全国子ども会育成中央会議・研究大会が10月27日（金）～29日（日）に北海道札幌市で開催されました。

長野オリンピック後に長野市で開催された際に参加して以来です。コロナ禍で中断し、昨年から再開したと聞きました。

開会式には子ども会議員連盟の国会議員の姿が多く見られました。参加は約480名、盛況でした。



記念講演はむかわ町国民健康保険徳別診療所副所長中塚尚子氏による「子どもの心をのぞいてみれば-地域医療から見る問題点と対策-」。ネットやスマホが当たり前の子どもたちにとって、「いじめが家までついてくる」という実感を持っているなど興味深い話がありました。

大人になった犯罪者の中には、子ども会の活動を覚えていて、大人からの言葉を大切にしているケースがあると言います。目に見えないけれど、子ども会の指導者・育成者が自信を持って子どもたちの心に種をまいてほしいという励ましの言葉がありました。「みなさんの言葉が子どもたちの人生を支えることを信じてがんばってくださいね」と聞こえました。

そして、講演終了後に司会者から中塚先生は香山リカさんですと言われて、なぜ著書の中に「精神科医香山リカのわかりみが深いココロの話」があるのかやっとわかりました。

第6分科会は前恵庭市子連会長・元岩見沢市教育委員会教育長小山忠弘氏がファシリテーターとなり、「学校や行政、地域組織との効果的な連携」をテーマに行われました。約50人の参加者がグループに分かれ、「コミュニティ・スクールと子ども会の連携」について協議することを目指したのですが、ほとんどの参加者はコミュニティ・スクールを知らない状態で、次のステップに進むのは難しかったです。各自が記入したアンケートをもとに意見交換、協議と進みました。山口県のコミュニティ・スクールの状況を報告しました。



全子連をはじめ北海道子連、関係者に皆様、お世話になりました。